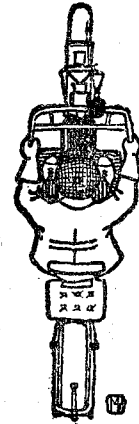


通信

米國管見〔二〕



藤田周造
田邊良忠

北米合衆國の道路を視て來いと、の道路改良會からの
委囑もあつて吾々二人は船を共にし道を同ふしてニュ
ーヨーク迄送りつゝ、三月三十日に太平洋丸で横濱を
出てから藤田は五月三十一日にマゼスチックの客とな
つて英國に亙り、田邊は六月三十日に三島丸で横濱に

歸つたまでの往復三ヶ月中味二ヶ月の間にあはたゞし
くも盲目の垣のぞきよろしくの格好で、節穴から見
まゝ書いたまゝを書きながつて見る、これが二人が、
りのレポートの全部だなどと、早合點し給ふ事勿れと
敢て斷つておく。

○先づ旅行のスケヂュールを書いて見ると

田は渡英

三月三十日(土) 午後三時 横濱出帆(太平洋丸)

四月八日(月) 午後七時 布哇ホノル、入港

直に上陸視察

九日(火) 午前十時 ホノル、出帆

十五日(月) 午前十時 桑港着

正午 上陸

二十一日(日) 朝 桑港發(汽車)

同日 夕 ロサンゼルス着

二十三日(火) 朝 ロサンゼルス發

二十四日(水) 朝 グランドカニヨン國立

公園視察の上同夜發

二十七日(土) 朝 シカゴ着

二十九日(月) 夕 シカゴ發

三十日(火) 朝 バツファロー着

同日 日 ナイヤガラ瀑布見物

同日 日 バツファロー發

五月一日(水) 朝 ニューヨーク着

五月三十一日(金) 夜半 マゼスチツク號にて藤

此の間二人は思いくにオルバニー、ボストン、フィラデルフィア、ワシントン等の見學を試む、以下は田邊の單獨行動となる、つまり五月中の大部分を二人はニューヨーク中心に暮して米國についての概念を得又土木工事の主たる見學や役所の訪問などを試みてお土産の材料を集める。

六月一日(日) 朝 ニューヨーク發

同日 夕 ビツツバーク着

四日(火) 朝 同 發

同日 夕 シカゴ着

八日(土) 午後 シカゴ發

十日(月) 朝 ソルトレーキシチー着

同日 夕 同 發

十一日(火) 朝 ポートルランド着

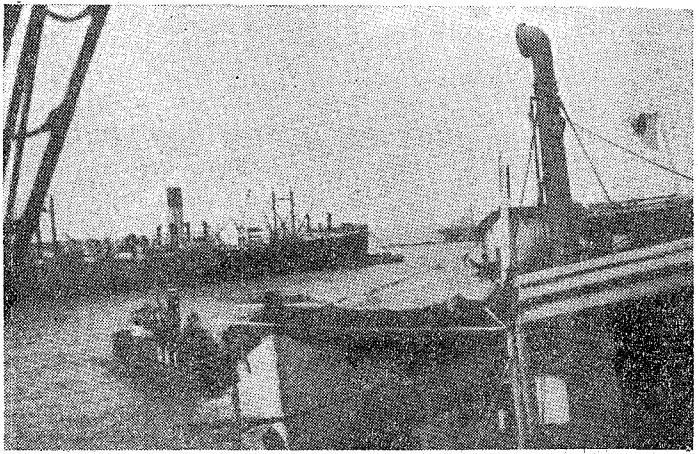
同日 夕 同 發

十五日(土) 朝十時 シアトル發(三島丸)

○日記帳より……

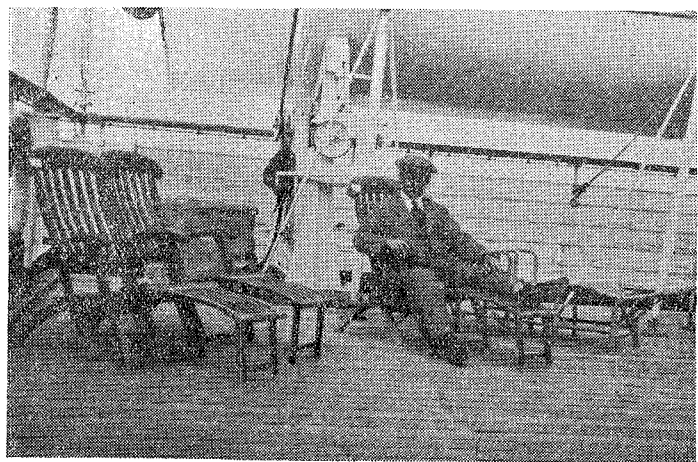
六月三十日(日) 朝八時 横濱着

一萬六千噸、日本郵船の最大級の船に納まつて日本中の
 エンヂニ
 ヤーの代
 表みたい
 な氣取り
 では居て
 も東京灣
 内とはい
 さゝか勝
 手がちが
 つて二日
 目の朝は
 半分斗り
 ヘッドに
 寢込むで
 居るのを
 茶目の誰彼にからかわれたくやしさに無理からデッキに出



第一圖 太洋丸の見りた横濱港

てピンボンやデッキゴルフを野次つてる内にスツカリ太平



第二圖 甲板の上の田邊

を左舷にして、八時にはホノル、港のビヤに横付けにな

洋を征服
 したよう
 な氣にな
 つて三度
 の食事が
 待かねる
 有様にて
 わけなく
 日が立つ
 て行く。
 九日目
 の四月八
 日の早朝
 布哇のオ
 アフー島

る、型ばかりの檢疫をすませて早速見物に出かける。

常夏の

國布哇は

今が初夏

の氣分豊

な時で新

緑は目覺

る斗りな

るに名も

知れぬ鳥

が囀り熱

帯らしい

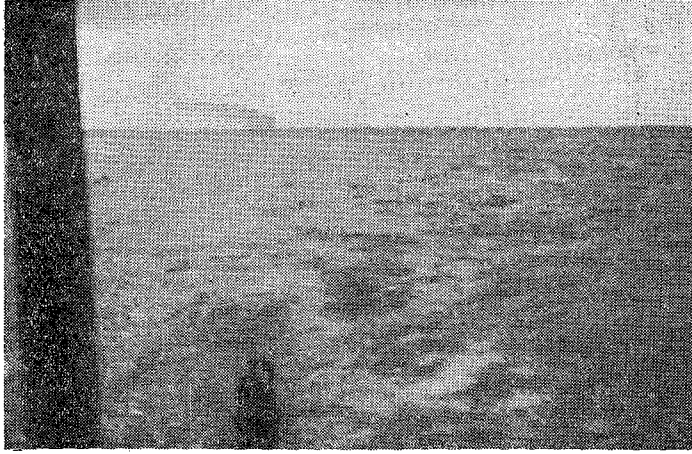
色合の黄

や紅の花

も盛りで

氣温はた

しかに七十五六度と思はれるのに涼風が堪えず面を拂ふて



第三圖 太平洋上の夕陽

汗ばむといふ程でも無く大森林や椰子、バナナ、

ツプルそ

の他の果

樹も豊で

惠まれた

國である

天産が豊

過ぎて土

着の人は

あまり活

がないと

いふ、さ

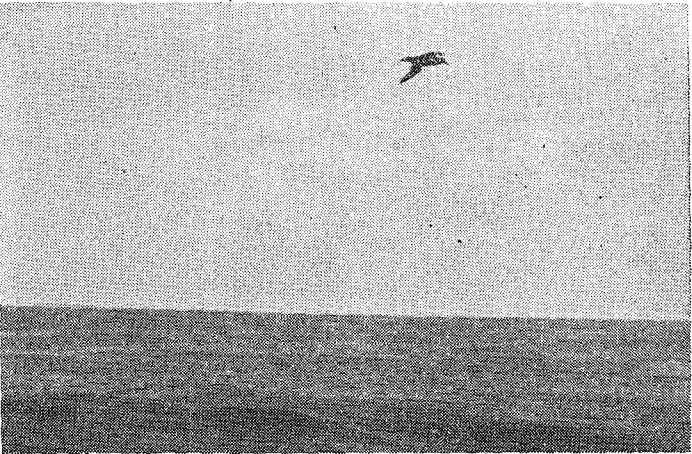
もありな

んと思は

せる。

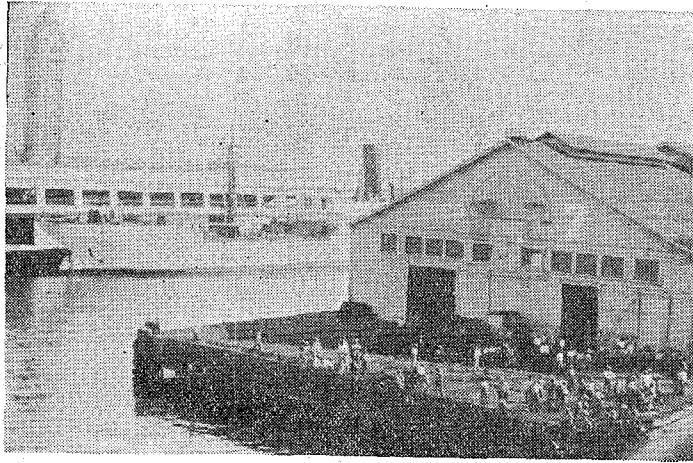
市中の

道路は幅十二間位で主要な街路には復線軌道が敷かれて



第四圖 布哇近信天翁鳥も船を飛ぶ

の道路は概ね舗装されてある、種類はターマカダム、シートアスファルト、アストコンクリート、コンクリート及コシクリート等で手入が中々

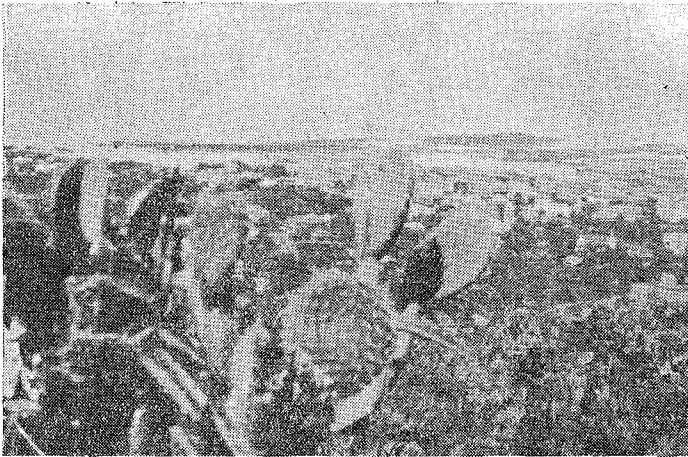


第五圖 第ホノルル港阜頭

る、ゲージは三呎半、兩側車道十八呎、歩道九呎位、大小

よく行互つてゐるのに感心させられる、此處には軍港及兵

營もある事として軍事道路は中央政府と洲廳との共同出資で



第六圖 第ホチノルル丘よサリホテ通し見たるホノルル

其の他の道路と共に洲廳の管理に屬して居る。そうだ。自動車が多くなり、多いたるに、パーキングスペースや交通整理には中々注意してゐるの

赤色ペンキで塗た處にはパーキングさせぬとか、黄色の處ではトラックの積荷のみを許すとか、メインストリートに對してクロッツする道路の交通は必ず一回車を止めて後で

なければ出れないようにストツプの標示があると、町の角ではカーブストーンに町名が記入してあるとか、高が米國の屬領位と思つてた吾々にとつても可なり注意させられる色々のものを見せられた。

四月十五日、愈々桑港

に着くべき朝が來たと思つて夜明けを待かねて居ると、一
聲——二聲——ボーツと警笛が鳴る——一分間置き——三
十秒置き全くいやな音だ、桑港名物のガスがかゝつて來た
のである、船はあるかなきかのスピードで徐行してゐる、い



第七圖 南洋天の産マゴンの果實

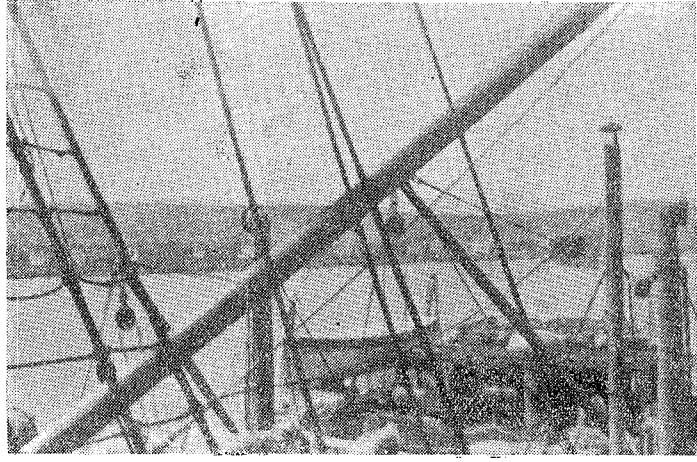
つになつたら桑港に着くのか見當もつかない、程經て右舷と左舷との両方から牛のうなるようなサイレンの音が聞える、ゴールドンゲートの燈臺からの合圖で音をたよりに梶

を取る船長も一等運轉士も懸命に耳をすましてるのがわかる、無氣味な光景だ、かゝる内にも霧はいつとはなくだんく〜に晴れかゝつて今では金門灣の風もあでやかに手にとるように見える、山あり、岩あり、鬱蒼たる樹々も繁つて瀬戸内海にでも見るような景色が展開して來る、高いビルディングが見える、ビヤーが數多く並んでる、船が全く止る、檢疫や旅券の調べがすんで足一歩ビヤーに印すれば吾等は正に米大陸をふんまえて居る、ハ、ア是れが

ヤンキーの本場だな何くそ驚くもんかいと一歩一歩を踏
しめて行
く……

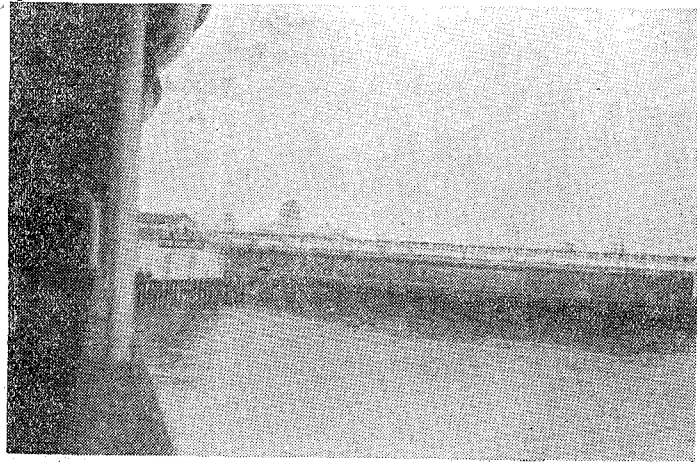
多勢の
日本人た
る知巳の
方々に出
迎られて
何だか大
したちが
つた處へ
来たよう
な感じも
無く先つ
く日本
人の宿で

腕ならし呑口ならしが便利でよからふといふ事になり少々



第八圖 日章旗を繖にし金門灣に入る

ムサクロシイのを我慢して小川ホテルの客となる、打くつ
ろいで後



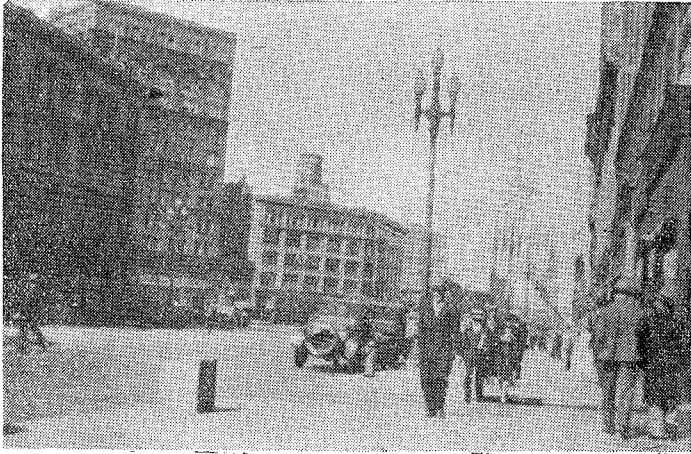
第九圖 桑港日本郵船専用三十四號棧橋に入らんとす

の食卓は
さしみ、
吸物、焼
魚、すの
もの、等
々、ドラ
イのアメ
リカにも
酒のよう
なものが
あつてす
つかりい
ゝ氣持に
なる。

見學氣分旺盛な吾々一行（鐵道技師木原英一君も絶えず

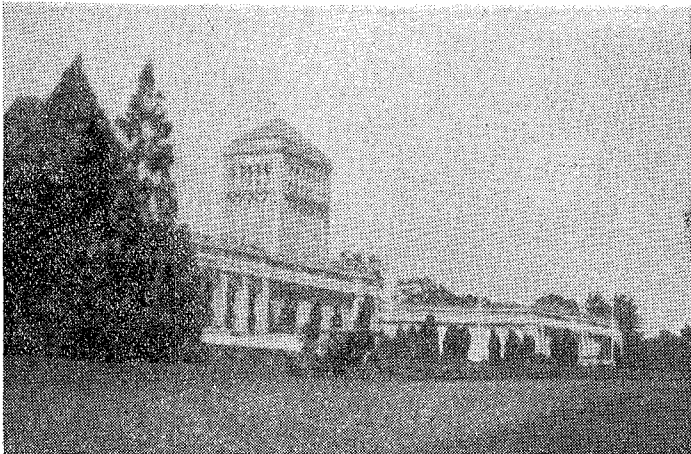
吾々と行を共にして紐着迄行つた仲間の一人で氏の縁故か

ら吾々兩
人が多大
の便宜を
得た事を
特に附記
して置き
たい)の
事として
の日の内
にユニオ
ン、オイ
ル、コン
パニーに
亙りをつ
け翌十六
日は朝の内にゴールドデン、ゲート、パークのドライブを了



第一象印一第の港桑 圖十第

へて約束の午後二時には其のオフィスに支配人マック・キ



第十圖金門公園博物館

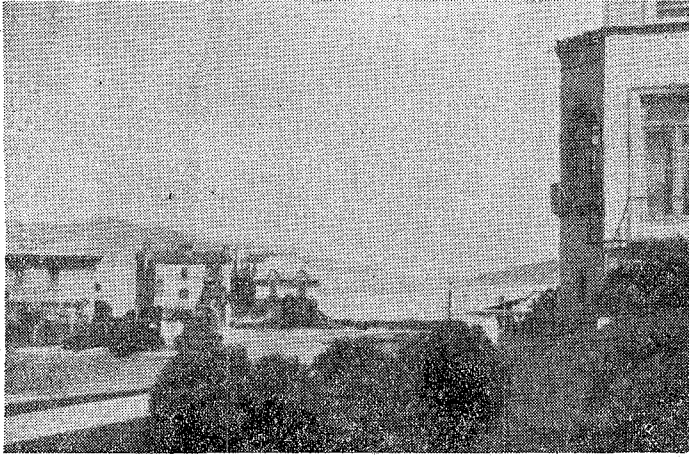
ーパー氏
を訪ふ、
明日工場
を案内し
てもらふ
約束をし
てから若
い技師に
案内され
てサード
ストリー
トのトベ
カによる
改修工事
を視る、

オイルバーナーによつて壹坪斗りの路面を暫くの間に加熱

して古い鋪装を取除きその古い材料を加減してすぐ新しい
 改造に應用する處などを一寸目新し
 く見た、ミキシングプラントからか
 けつけた老技師（名を逸す）が嘗て
 京濱國道の工事中に藤田と相識の間
 なのですツかり喜んで色々親切に説
 明してくれたのはうれしかつた。

十七日にはマツクキーバー君の案
 内で自ら自動車をドライブしてオル
 リーンにあるユニオン、オイルコン
 バニ一の工場を見せてくれる、途中
 自動車諸共ゴルデンゲート、フェリ
 ーと名のつく渡し船の客になり對岸
 のオークランドへ渡れば幅は二車線
 長さ三哩斗りの長い棧橋を朝霧と共
 に亘ると更に三十哩斗りを苦もなく
 ドライブして工場に着く、此處から程遠からぬ處に今年三

月に竣工した斗りのカーキネズ橋あり桑港灣の北端に近く



第二十圖 公園附近より金門灣口を望む

横斷するステート、ハイウエーに
 架するものにて長さ約三千呎のカ
 ンティレバーなるが賃取橋なり、入
 口の看板に書いた文句が面白い。

Carguenez Bridge.

A Toll Bridge.

Autos 60¢ Passengers 10¢

Toll Houseat Opposite End of

Bridge

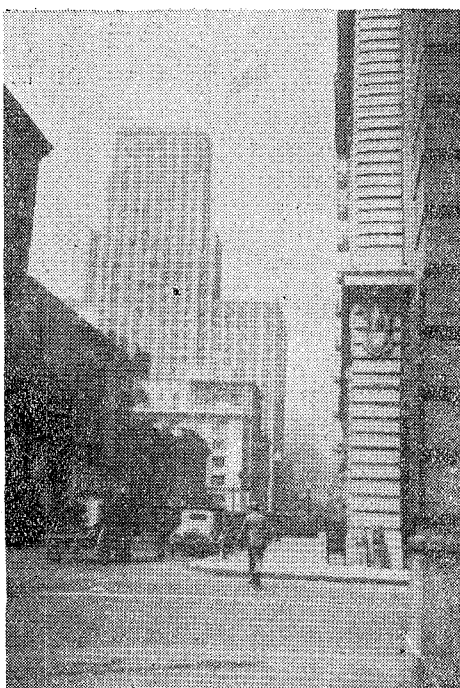
No Stopping or Turning on Bridge

看板に偽り無く一度渡れば自動車
 は六十セント、人は十セントを拂
 はされる、橋を見物して廻れ右し
 て歸る只乗りの客をトツチメル爲
 に用意周到な文句が見出される。

工場では寫眞も撮らせずパンフレットも呉れないので、

時間をかけた割合にお土産話は少いが亞米利加の道路工學で忘れることの出来無いアスファルトとガソリンとは、カリフォルニア州の各地から豊富に産出される原油を船、汽車、鐵管等各種の方法によつて此處の工場に輸送し來り、日々五十噸の原油からガソリン、機械油、アスファルト、に精製して凡そ等分の生産があるそうで年産額は夫々一萬五千噸を下らないと云ふて居る、こゝで少し米國のガソリンについて述べて見たい……

米國は略語のはやる處でガソリンなんかも *gas* とかいである、是れを亞米利加流になまツてギヤスと云ふのが一寸氣障に聞へるがギヤスで通るのだから仕方がない、ガスは小竪でも一ガロンにつき十六セントから十八セント位が



第十圖 第一茶港の建築(三六階)

相場でしかもガソリン消費税(州によつてちがふが二セント乃至五セント)を負擔しその値段でそれこそ國中至る處の道路沿道にガスタンドを見出す事が出来る、亞米利加

人ほど無茶苦茶に自動車に乗るものはあるまい一昨年の調によると全米のガソリン消費量九十三億六千萬ガロン全米のガソリン稅收入二億五千九百萬弗(約五億七千萬圓)全米の自動車數二千七百五十九萬臺

全米の人口 一億一千四百萬人

(人口に割當約五人に付一臺の割)

一錢二錢の零碎な錢が年額七億萬圓の税金を産みその收入は擧げて道路鋪裝の改良に充てられるのだから、米國の道

路はよくならざるを得ない。

次に又自動車の多い事も世界一にちがひ無い、五人に一臺の平均となつてゐる如く、中流の家庭では主人用と家庭用とはわけてある家が多い、然も家庭は多くはアパートメント

住居で自動車は近所のガレージに預けておく、

パークینگビルディングと云つて數階若くは十數階の建物の各層に數十臺を容るゝ大さがあり各階はスロープで自由に車が昇れるから一時に數百臺を收容する事は何でも無い、一日の預り賃五十仙

位できれいに掃除をしておいてくれるといふ寸法だ、それから、自動車の相場が大分安い、是も一昨年統計によると

全米自動車生産量 三百三十三萬五千臺

此見横價格

二十五億三千八百萬弗

一臺平均

乗用車 七百五十七弗

貨物車 七百八十五弗

是は最高級から最下級までのつづこみの平均で先づバック



第十四圖 Parkig Limit 40 Minutes
の制札とスケール代用の藤田

ドやクライスラー級で新品が二千弗内外、フォード級で二百弗なら買へる、現に中古品の市場が方々で立つのが田舎廻りの乗合に見かける舊式フォードなら三十五弗から値がついてゐる、百五十弗も

出せばハドソンの箱位は買へようと云ふもの、米人の考で弗がちようと吾々の圓位の値打を思つてゐるらしいから三十五弗は我が三十五圓見當の値打で百五十弗は百五十圓の相

場に當る、それとどしどし月賦販賣方法が行はれてるから猫も杓子も自動車を買へるのに不思議は無い。

昨年の調べで世界の自動車の總數を比べると

全世界自動車總數 二九、六八九、四九九

百分比 一〇〇

米 國 二七、五九四、二〇九 八九・六

英 本 國 一、〇三三、五〇〇 三・五

カ ナ ダ 九三八、三〇八 三・二

佛 國 六五六、〇〇〇 二・二

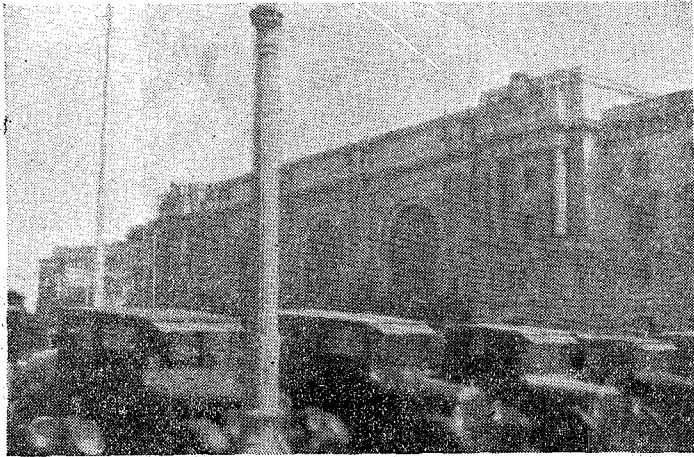
ス ペ イン 一七六、〇七五 〇・六

伊 太 利 一五八、六〇〇 〇・五

日 本 五四、七五六 〇・一八

米國が殆ど九割を占めてるのに比し我國は第十二位で千分の二程に當る。人口七千萬人と見て千二百七十人に付一臺の割だから米國の自動車のめまぐるしさが想像されようといふもの、實際米國は自動車の整理に悩まされてる有様で已にシカゴの一部では二重街路が實現し、將來の都市には

二重、三重の街路が案出されんとして居る、第一に最もこ



第五十圖 桑港公會堂とキーバンクの行列

まらされてる問題は、はパーキングスペースでこゝろに桑港のような舊い街では概ね町幅が狭いから銀行會社町に八、九時頃からは車の

置場は全く無いと云ふ位で二町も三町も車を置いてから歩

かねば目的の建物に行けないといふ位の事は普通であるの

みならず

交通整理

を町の辻

々で行ふ

結果ラツ

シユアワ

ーにはた

しかに歩

いた方が

早い位に

角々で喰

い止めら

れる、故

に少くと

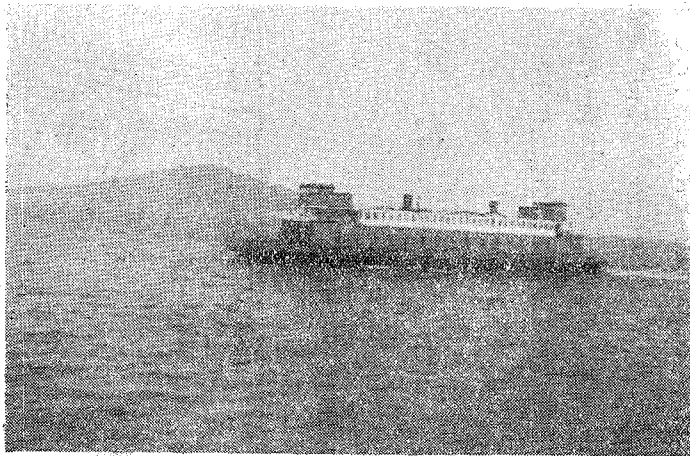
も桑港の

ような舊都市では自動車とは厄介千萬な遅い交通機関なり



良改装舗のトーリトスドーサ港桑 圖六十第
(處るす熟加を装舗葛がーターヒドーロに煙白の面路手右)

といふのが結論になる。(未完)



ーリエフトーゲンデルーマ 圖七十第